

『 老後の財産管理の基礎知識～遺言・成年後見制度・民事信託～ 』

講師 野田 崇さん (司法書士)

(参加者41人) ※手話通訳あり

赤磐市で司法書士として活動される野田さんの講演を聞きました。

講演冒頭で司法書士の仕事について簡単なお話があり、終活をしてても認知症になることで起こる問題について、具体例を用いた説明がありました。

続いて、認知症になる前に事前対策をいうことで、「法定後見制度」と「任意後見制度」について、野田さんの司法書士としての経験に基づいてメリット・デメリットの解説がありました。

「法定後見制度」は、本人が認知症等になったのちに裁判所から選定される後見人で、財産管理の一助にはなるものの、全く知らない人や専門家が選定される場合があります、費用が発生する場合があります。さらに、一度選任されれば断ることはできず、本人のため



めの財産使用しかほぼ認められず、大きな負担になることもあることから、この制度を利用することは苦肉の策だとおっしゃられていました。

「任意後見制度」は、元気なうちに任意の後見人を決めておくことができ、財産の使用範囲等本人の意思を反映することができ、準備さえしておけばデメリットはないと言われており、「任意後見制度」を勧められるとともに、元気なうちに準備することの大切さを強調されていました。

もう一つの事前対策として家族信託についての説明があり、家族信託により準備をしておけば、

本人が認知症になったとしても、後見人なしで家族が財産の管理・処分ができるようになるので、いろいろなことがスムーズに行えるとのことでした。具体事例を用いての家族信託のメリット・デメリットの説明は、とても分かりやすく、参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。

さらに続いて、遺言書の種類や効力、書き方を解説され、まずは書いてみることで、日付が新しいものが採用されていくので、今後アップデートしながら、元気なうちに将来の備えをしましょうというアドバイスをいただき、講演を締めくくられました。

アンケートからは、「本気で相続のことを考え、すべきことはやっておこうと思った。」や、「まだまだ先だと思っていましたが、今日のセミナーは全員が受けて知っておくべき内容だと思いました。」という感想があり、参加者から大変好評の声を多数いただきました。

